



カレン・M・ゲルハルト著 『才能・訓練・権力』より

狩野派は15世紀に起こり、歴代当主の政治的手腕、一門の絵師たちの溢れる才能、そして堅固な組織力によって興隆した。家父長制的な組織体系で、代々、狩野家の男性が一門を率いた。17世紀後半になると、そうした血縁に基づく組織体制を基盤に、狩野派の諸師に学んだ門弟たちが複数の系統を築き、確固たる絵画流派となった。狩野派に学んだ絵師は非常に多く、将軍お抱えの御用絵師、諸藩に仕える絵師、そして職業画家として独自に活動した下級の町絵師まで、社会的地位も多様であった。これほど大規模かつ複雑な組織内で、一貫した狩野派様式を徹底するには、厳格な教育体系が不可欠であり、指導法が非常に重視された。そうした狩野派の工房組織は、権力者とのつながり、数多くの後援者の存在、優れた組織運営、さらに日本美術全体への大きな影響力を背景に、いわば美術学校の役割を果たし、江戸時代末に至るまで非常に多くの画家を輩出した。

Gerhart, Karen M. Excerpt from "Talent, Training, and Power: The Kano Painting Workshop in the Seventeenth Century." In *Copying the Master and Stealing his Secrets*, edited by Brenda G. Jordan and Victoria Weston, 9. Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003. (カレン・M・ゲルハルト著『才能・修練・権力: 17世紀の狩野派工房』 ブренда・G・ジョーダン、ヴィクトリア・ウェストン編『師を写し、秘訣を盗む』 p.9 ハワイ大学出版会 2003年)



狩野興以 《松に雉図》(部分) 1626年 セントルイス美術館